

新解

小学館

国語辞典

第二版

大石初太郎 編

小学館

新解

国語辞典

大石初太郎
編

小学館

蔵書章

小学館

新解国語辞典

一九八二年 一月二〇日 初版 発行
一九九九年 一月一日 第二版第一刷発行
二〇〇六年 二月一〇日 第二版第八刷発行

編者 大石 初太郎

発行者 佐藤 宏

印刷所 図書印刷株式会社

発行所 株式会社 小学館

〒101-8601 東京都千代田区一ツ橋二-11-1

電話 編集 東京〇〇三(三三〇)五一七〇
販売 東京〇〇三(五二八)三五五五

© Y. Ōishi 1982, 1999

Printed in Japan

本書の一部あるいは全部を無断で複製・転載することは法律で認められた場合を除き、著作者および出版者の権利の侵害となります。あらかじめ小社あて許諾を求めてください。

☐〈日本複写権センター委託出版物〉

本書の全部または一部を無断で複写（コピー）することは、著作権法上での例外を除き禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター（☎03-3401-2382）にご連絡ください。

造本には、じゅうぶん注意しておりますが、万一、落丁・乱丁などの不良品がありましたら、「小学館制作局」（電話0120-336-340）あてにお願いします。送料小社負担にてお取り替えいたします。（電話受付は土・日・祝日を除く9:30~17:30）

★本辞典の表紙は、地球環境に配慮した素材を使用しています。

★小学館国語辞典編集部ホームページ

<http://www.web-nihongo.com/>

ISBN4-09-501602-7

編者のことば

— 第二版刊行に当たって —

本辞典の初版の刊行から、かなりの年月が流れました。この間一般から変わらぬ支持を得続けてきたことを深く感謝しておりますが、このたび改訂版を出すこととなりました。

改訂作業の主な点を次に掲げます。

- 1 全面的に一語一語の解説・表記に吟味を加えて、必要と思われる加除訂正を施した。
- 2 新しく、必要と思われる約一〇〇〇語を取り入れ、その結果、総語数は約四九〇〇〇語となった。
- 3 文法敬語故事使い分け参考注意等に属する囲み記事を充実させた。特に、敬語故事の類を大幅に改訂増補した。
- 4 類書に見られない、読みやすい大きな活字の国語辞典という特色をそのまま踏襲したが、さらに、見出し語のうち、漢字表記の画数が多くて複雑なものについては、随所に特大の活字を配した。
- 5 本文四八ページ増となったが、そのページをはじめ、各ページの下欄外の一行知識を補い充実した。

改訂作業は大方右のとおりですが、本辞典が、小学校高学年から中学校・高等学校での学習に役立ち、さらに一般社会人の言語生活に有用とされるものというねらいは、全く変わりません。

社会の言語生活は、今後ますます複雑に変化してゆくことでしょう。それがことばの進歩、社会の進歩と言うべきものでしょう。この辞典をお使いくださるかたがたのお力をもお借りして、今後ますます本辞典を言語生活のために有用なものに育ててゆきたいと強く念願いたします。

終わりに、このたびの改訂作業に当たって、小学館の辞典編集部員諸氏の傾けられた労力の大きかったことをかえりみて、深く敬意・謝意を表します。

一九九八年五月

大石 初太郎

編者のことば — 初版刊行に当たって —

国語辞典も日進月歩という時代になってきました。新しい時代の要求に応じた語を収め、新しい基準による表記を示し、清新な内容解説を示さなければ、国語学習や言語生活にじゅうぶん役立つものになり得ません。

このたび刊行することになった小学館「新解国語辞典」は、右のような留意に基づく編集作業に年月を費やした結果、成ったものであります。なお、「新解」とは、新しい時代の国語学習・言語生活の手引きとなるものでありたいと考えて名づけたものであります。

この辞典は、小学校高学年から、中学校、さらに高等学校までの学習に役立ち、また、一般社会人・家庭人にも有用であることを目標として作られました。現代語のほかに、入門期の古典学習に必要な基本的な古語を収めたこと、常用漢字表の漢字一九四五字を本文の中に組み入れ、その一字一字について解説したこと、日本文学上のおもな作品、日本文学・文化史上のおもな人名を取り上げて説明を加えたこと、おもな慣用句・ことわざの類を収めたことなど、その工夫の一端であります。

このような小型辞典において以上のことを実現するためには、項目の選定に、また、解説を簡潔にして有効なものにするために、格別の努力を払ったことはいうまで

ありません。

その他、とくに工夫を用いたおもな点をあげれば、次のとおりです。

- 1 「常用漢字表」「現代かなづかい」「送り仮名の付け方」等による標準的表記を示したこと。
- 2 異字同訓（たとえば、「暖か」「温か」、「上げる」「揚げる」「挙げる」などの使い分けを示したこと。
- 3 文法に関する必要な知識を、本文および付録で詳しく示したこと。
- 4 まぎらわしい語の使い分け、誤りやすい表記、敬語についての知識、その他、語に関するいろいろな知識を、それぞれの語のあとにつけたり、とくに囲み欄にしたり、各ページの下の欄外に示したりしたこと。

- 5 文化史年表をはじめ、有用と思われるものをもつて、付録を充実させたこと。

以上のようにして、この辞典は出来あがりました。本書が多くのかたがたのために役立つことを祈ってやみません。

この辞典の成るに当たっては、格別のご協力を与えられた外山映次氏のほか、多数のかたがたのお力を借りました。ここに厚くお礼申しあげます。

昭和五十六年十月

大石 初太郎

この辞典の使い方

一 収めた語の範囲

現代の社会生活に役立つ国語辞典として、また、学習用の国語辞典として、必要な語をもらさず解説することにつとめました。このほか特に次のようなものを収めました。

○入門期の古典学習に必要な基本的な古語。

○日本のおもな文学作品・作家、また、旧国名など。

○おもな慣用句・ことわざなど。

以上を合わせて、この辞典には約四万九千語を収めてあります。また、常用漢字表の漢字（一九四五字）一字一字の意味と用法について解説しました。

二 見出しの示し方

太字の平仮名や片仮名で示してあるものを「見出し」といいます。

1 和語（日本固有の言葉）・漢語の見出しは平仮名で示しました。そのうち、現代語は現代仮名づかいで示し、古語（むかし使われた言葉）は歴史的仮名づかいで示しました。

2 外来語（外国から入ってきた言葉）、また外国の地名・人名は片仮名で示しました。

3 和語・漢語と外来語が結合して出来た語は、平仮名と

片仮名との組み合わせで示しました。

(例) は^{ラシ}【歯^{ラシ}】
バズーカ^{ほう}【バスーカ砲】

4 慣用句・ことわざ、その他、語がいくつか結びついて出来た連語の類は、漢字仮名まじりで示しました。

(例) 当^{あた}たら^ずといえども遠^{とお}くから^ず

5 基本となる語の解説のあとに、その語にはかの語が付いて出来た複合語や連語を解説しました。その場合、元の語の部分を一で示しました。

(例) あたま【頭】^{あたま}……一隠^{かく}して尻^{しり}隠^{かく}さず……

お・いえ【お家】^お……一騒動^{さうどう}……

6 見出しの中の・は、活用する語の語幹と語尾との切れ目を示すものです。

(例) あい・する【愛する】^{あい} ^{（他サ）}
あお・い【青い・蒼い】^{あお} ^{（形）}

7 見出しの中の・は、その語の成り立ち上の切れ目を示すものです。

(例) おん・そく【音速】
ちよう・おん・そく【超音速】
み・あた・る【見当たる】

8 接頭語には下に・を、接尾語には上に・を付けました。

(例) あい・【相】^{あい} ^{（接頭）}……「一争^{しやう}う」
がけ【掛け】^{がけ} ^{（接尾）}……「帰^{かへ}り」

三 見出しの並べ方

- 1 見出しは五十音順に並べました。
 - 2 同じつづりの語が並ぶときは、普通の大きさの仮名で書く直音の語の前に、小さな仮名で書く促音(っ)、拗音(ゃ・ゆ・よ)の語を後に置きました。
 - (例) あつ・かん【熱×爛】
あつ・かん【圧巻】
きやく【規約】
きやく【却】
 - 3 清音・濁音・半濁音の順に並べました。
 - (例) ホール
ボール
ポール
 - 4 仮名で書いた形が、まったく同じ場合には、次の順に並べました。
 - (1) 大見出し漢字・和語・漢語・外来語の順にする。
 - (2) 接頭語・接尾語・名詞・代名詞・動詞・形容詞・形容動詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞・助詞・助動詞の順にする。
- なお、大見出し漢字は、接頭語・接尾語の前に置くことを原則とするが、ある品詞に限定して使われるものは、その品詞の位置に置く。
- (3) 漢字書きの語では、漢字の画数の少ないものを先に、画数の多いものを後にする。

四 言葉の書き表し方(表記)

- 1 見出しの下の【】の中に、その語の書き表し方(表記)を示しました。ただし、見出しの仮名と同じに表記される語の場合は省きました。
- 表記が幾通りもある場合は、二つまで示すことを原則としました。
- 2 【】の中に教科書体活字で示したものは、常用漢字表(昭和五十六年内閣告示)、現代かなづかい(昭和二十一年内閣告示)、送り仮名の付け方(昭和四十八年内閣告示)によった現代の標準的表記です。
- (例) きづかわしい【氣遣わしい】
ゆきとどく【行き届く】
- 送り仮名のつけ方には、本則(一般的なきまり)のほか、に、許容(読み誤るおそれのない場合に省くことのできるものなど)がありますが、次のように示しました。
- (1) 複合語(二つ以上の単語が結びついて一つの単語になったもの)のばあいには、まず本則を覚えることが大切と考えて、許容は示さない。
- (2) 単純語(二つだけの要素からできている語)のばあいには、本則にそえて許容も示す。
- (例) あらわす【表す(表わす)】
おこなう【行う(行なう)】
- 3 【】の中に普通の活字(明朝体)で示したものは、そのほかのおもな慣用的な表記です。右肩に×印を付け

た漢字は常用漢字表以外のもの、▲印を付けたものは、常用漢字ではあるが、常用漢字表外の読み方に使われているものです。

【例】 いっしゅう【一蹴】
つづめる【約める】

注意 慣用的な表記を示した語の中には、仮名書きにしてもさしかえのないものが少なくありません。つまり、漢字で書くときはこのように書くということを示したものが多数あります。

4 当て字は常用漢字表の中にあるものでも、明朝体活字で示すか、見出しの仮名で示すことを原則とし、教科書体活字では示してありません。

【例】 むーちゃ【無茶】
めでた・い【目出度い】

5 意味・用法によって表記の変わるものは、次のように示しました。

【例】 あがる【用出】●【上がる】①下から上の方に行く。
のぼる。……②……
●【揚がる】①空中に高くかかげられる。……
●【挙がる】①犯人がつかまる。……

なお、次のような場合は、【立つ】が全部の意味・用法に対して使われ、そのうち⑤⑧の意味・用法に対しては【起つ】【発つ】も使われることを示します。

【例】 た・つ【立つ】【用出】①まっすぐたてになっている。
②……③……⑤【起つ】……⑧【発つ】
……

6 古語の表記は、すべて明朝体活字で示しました。

【例】 う・し【憂し】【用出】古語①……

7 人名・作品名・地名・旧国名などの表記は明朝体活字で示し、×や▲を付けません。

【例】 よさの・あきこ【与謝野晶子】
つれづれ・ぐさ【徒然草】
わかさ【若狭】

8 外来語は、解説の後に▽印で原語のつづりを示しました。つづりの前に付けた英・フなどは、英語・フランス語などの略です。（外来語の名称の略語表は、前の見返しにあります）

また、外来語その他、ローマ字で書くのが普通のもの、見出しの下に【 】に入れてその形を示しました。

【例】 アイ・オー・シー【IOC】……▽英 Interna-
tional Olympic Committee か。

9 慣用句・ことわざ、その他の連語は、慣用的な表記によって見出しを立てました。

【例】 一斑【いっはん】を見て全豹【ぜんひょう】を×トぼくす

五 意味・用法の説明

1 意味が二通り以上に分かれているものは、基本的な意味の説明を①とし、そのほかの意味を②③……とするようにしました。しかし、基本的でなくても、おもに使われる意味を①として解説した場合もあります。

①の意味をさらに細かく分けて説明するときは、⑦⑧

⑦……としました。

2 一つの語で品詞、または表記が違ってくる場合は、●
●……で示しました。

(例) だいいち【第一】●①いちばんはじめ。最
初。②……●副ます。さしあたり。

(例) あらっ・ぽい【形】●「荒っぽい」荒々しい。
「手口(てぐさ)」●「粗っぽい」雑である。おおよ
かである。「計画」

3 意味・用法の説明を補うために、必要と思われるかぎ
り、「」に入れて用例を示しました。用例の中の「」は、
見出しに当たる部分です。

4 古語の用例には、() の中に解釈を示しました。
() に入れて注釈を加えたものもあります。出典も
() に入れて示しました。

(例) いはけ・なし【「幼けなし・稚けなし」】^{「ウケ」}形ク「古語」
おきない。子どもっぽい。「紫ノ上へ」まだむげにヘビ
ドク。いはけなき程に待るめれば」(源氏物語)

5 ↑を付けて反対語を示しました。反対語は、解説の後
に置くのを原則としましたが、①②……と分かれている
意味の全部に対するものは、①の前に置きました。

(例) しょうにん【小人】^図こども。↑大人^図。
するどい【鋭い】^形↑にぶい。①……

6 古語・俗語・方言など語の種類、また語源・由来など
を「」に入れて示しました。

(例) やばい【俗語】
やよいしき・どき【弥生式土器】^図「明治十七年、東
京の本郷弥生町の貝塚で発見されたことから」

六

品詞と活用 (前の見返し「品詞と活用の記号」参照)

1 語の意味・用法の説明の前に、品詞と活用の種類を
□で囲んで示しました。

二つ以上の品詞に属する単語は、品詞名を並べて示
しました。

(例) きょうりよく【協力】^図自サ
いらいら【「苛苛」^図副自サ

2 基本的な語と古語について、活用のあるものには、意
味・用法の説明のあとに、活用のしかたを示しました。

(例) かるい【軽い】^形……………
^{活用}軽「から」かっく「い」けれ○
のたまふ【「宣ふ」^サ他四「古語」……
^{活用}のたまは「ひふふ」へ

七

さまざまな特別の説明

表記・意味・用法・品詞・活用などのいっそう詳しい説明
や、語の歴史などの説明を、次の記号のもとに解説の後に加
えました。また、長文にわたる説明は囲み欄にしました。

① 文法に関する事から。

② 敬語に関する事から。

③ 読み方・書き方などで注意すべき事から。

④ 使い分けまざらわしい語の使い分けや、意味の別に応じた表
記の使い分け。

⑤ その語に関する、いろいろな知識。

○一行知識 全ページ下の欄外に、覚えておくに役に立つさまざまな説明を添えました。太字は、原則として同一ページにある本文中の見出しを表します。

常用漢字一字一字を、大きな活字でかかげ、その音訓や意味・用法を示しました。

1 その漢字の代表的な音（音のない漢字は訓）によって五十音順に、語の中に並べました。（三「見出しの並べ方」4の(1)(2)を参照）

2 漢字の下に総画数と部首別の画数を示し、その下に常用漢字表に示された音と訓とを示しました。

3 おもな意味・用法を◇の次に示しました。そのうち

その音・訓で独立の語となるものには品詞名を、接頭語・接尾語となるものにはその記号を添えました。

◇なまえ
名簿・氏名
口3画
メイ
ミヨウ
例
めい
名
6画

名・本名^{みほん}・戒名^{かいめい} ◆……◆接尾 人数
をかぞえることは。「数―・十―」

4 上の例のように、見出しの音（「メイ」）以外の音（「ミョウ」）を使う場合の用例には、振り仮名をつけました。

5 上の例のように、独立の語あるいは接頭語・接尾語として使われる場合は、用例の中でその部分をーで示しました。ーで示していない用例は、その漢字が熟語を作る成分として使われているものです。

6 送り仮名を含む訓の場合は、送り仮名の前に・を置きました。

(例) と・める と・まる

(例)あか・るい あ・ける ただ・し まつ・り

7 見出しの音以外の音については、別に見出しを立てました。

(例) いん【音】↓おん(音)。
みよう【名】↓めい(名)。

複雑な画数の漢字（約一九〇語）については、それを書き表す際の便を考慮して、大きな活字で見出しの近くに示し、おもな音読みと訓読みもあわせて示しました。

なお、ヤ（くさかんむり）の漢字の字体は、慣例に従って三画の活字を用いました。

〔例〕あくせく
【[×]齷[×]齷】
〔副〕

「自サせかせかとおちつかないようす。「一働く」

齒屋

訓 音
ア
ク

あ

あ【亜】

画 5 音 ア

◇次、二番目。「亜流・亜

ない無機酸。「亜硫酸」◇亜細亜「熱帯」◇酸素原子の少

あ【我・吾】「古語自分。われ。「」は行く

ああ【画】「前」にあったことをさす

「こころ・そう・どう。一言いえばこころ言、う

あれこれとことばを返してさからう。

ああ【嗚呼・嗟】感動したり、嘆いたりした

ときに出す声。

アーケード【アーク灯】図二本の炭素棒の先

を向かい合わせて電流を通じ、白色の光を出さ

せる電灯。

アーケード 図①丸

屋根のある通路

②商店街の通りの

上に屋根のようにか

ぶせたおおい。▽英

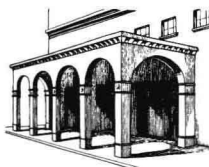
arcade

アース 図①自家電器

具と地面をつなぐこ

と。また、そのしか

け。電気を大地に逃がし、危険を防止する。▽



[アーケード①]

アート 図芸術。美術。▽英 art 紙 図表面

につやのある印刷用紙。写真版・原色版用。I

シアター 図芸術的な映画だけを上映する劇

場。▽米 art theater ーディレクター 図①

映画・演劇などの美術監督。②広告などをつ

くする場合の全体をまとめる人。▽英 art director

アームチェア 図ひじかけいす。▽英 arm-

chair

アーメン 図キリスト教で、祈りの最後にとな

える語。▽英 amen ーまことに「たしかに」の

意。のちに「そうでありますように」の意。

アーモンド 図バラ科の落葉高木。実は、洋菓

子などに使う。▽英 almond

アーリアーじん【アーリア人】図インド・ヨー

ロッパ語を使う人々の総称。特に、インドやイ

ランに定住した一派をさす。

アール 図面積の単位。一〇〇平方メートル。約三〇・

二五坪。記号 a ㎡ are

アールエイチしきーけつえきがた【Rh式

血液型】図血液型の一つ。血液中にRh因子

「抗体物質（凝集素の一つ）のあるもの（Rhプ

ラス型）と無いもの（Rhマイナス型）とがある。

輸血などでRhプラス型とRhマイナス型とが

まざると、危険な症状をおこす。

あい【相】図①たがいに。「争う」②動詞の

上につけて、あらたまつた言い方にする。「一

すみません」

あい【藍】図①タデ科の一年生植物。葉から濃

い青色の染料をとる。また、その染料。②濃

い青色。

あい【藹】図①「藹藹」とい

なる連体なこやかなよう

す。「和気」

あい【いがさ】相合

傘 図一本のかさを、ふたりでさすこと。おも

に男女のばあいをいう。

アイアン 図ゴルフ用の、頭部が鉄製のクラブ。

▽英 iron

あい【いく】愛育 図他サかわいがってそだてる

こと。

相【いれない】立場性質・意見などが一致しな

い。「仲」

あい【いん】合【印】図書類を照合したるし

に押す印。合【いしるし】。

あい【いん】愛飲 図他サこんで飲むこと。

あい【うち】相打ち 図剣道などで、両方が同

時に打って勝ち負けのないこと。

アイエムエフ【IMF】図国際通貨基金。▽

英 International Monetary Fund から。

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

※「相生い」の「生い」に同音の「老い」の意味を掛けことばにして、「相老い」と書くこともある。

アイオーシー【IOC】図国際オリンピック委員会。▽英 International Olympic Committee から。

あいーか【哀歌】図悲しみの気持ちをうたった歌。
あいーかぎ【合い・鍵】図錠にあわせてつくった別のもの一つのかぎ。

あいーかた【相方】図相手。
あいーがも【間・鴨】図ガンカモ科の水鳥。食用として、まがとあひるを交配した品種。

あいーかわらず【相愛わらず】図いつものように。かわることなく。

あいーかん【哀感】図悲しい感じ。
あいーかん【哀歎】図悲しみとよるこび。

あいーがん【哀願】図他サあわれっぽく泣くようにねがひ、たのむこと。

あいーがん【愛玩】図他サかわいがり、だいにして楽しむこと。「動物」

あいーき【愛器】図こんで、いつも使っている道具。

あいーきど【合着・間着】図春秋のころに着る衣服。
あいーきど【合気道】図武術の一流派。合気術。

あいーきやく【相客】図①同じ席に居あわせた客。②同じへやにとまりあわせた客。

アイキュー【IQ】図知能指数。▽英 intelligence quotient から。

あいーきよう【愛嬌】図①にこにこして、かわいらしいこと。②おせじなどを言うこと。「客にーをふりまく」一者。図あいきようがあつて、人にかわいがられる人や動物。

あいーぎん【愛吟】図他サすきな詩歌をうたうこと。

あいーくち【匕首】図つばのない短刀。

あいーくち【合い口】図相手としてのぐあい。
「彼とはーがいい」

あいーくるしーい【愛くるしい】図いかにもかわいらしい。図開愛くるしーから。くーいーいけん○

あいーけん【愛犬】図①かわいがっている犬。②犬をかわいがること。「一家」

あいーこ【愛勝】図負けのないこと。ひきわけ。
あいーこ【愛顧】図とくに目をかけ、引きたててのこと。ひいき。図「日ごろのご愛顧に感謝して」のように引ききたてられる側からいうことは、多く商人・芸人などが使う。

あいーご【愛護】図他サかわいがって、たいせつにすること。「動物」

あいーこう【愛好】図他サ愛し、このむこと。
あいーこう【愛校】図自分の学校を愛すること。

あいーこく【愛国】図自分の国を愛すること。「心」

あいーことば【合い言葉】図①味方であることを知らせる、あいずのことば。②ある主義・主張をかかげた標語。モットー。「前進のーのもとに結集する」

あいーさい【愛妻】図①愛している妻。②妻を愛すること。「一家」

あいーさつ【挨拶】図自サ①人に会ったときの、儀礼的な動作やことば。また、そのことばを述べること。②会合の席で述べる祝い・感謝などのことば。また、そのことばを述べること。③わび・礼などのことば。また、それを述べること。

あいーし【哀史】図悲しい歴史や物語。
あいーし【哀詩】図悲しみの気持ちをうたった詩。

あいーじ【愛児】図愛している自分のこども。
アイシー【IC】図トランジスタ・抵抗などの部品と、それをつなぐ配線を、一個の基板に組みこんだ超小型の電子回路。集積回路。▽英

integrated circuit から。

アイシービーエム【ICBM】図射程距離ハ○○○以上の弾道ミサイル。大陸間弾道弾。▽英 intercontinental ballistic missile から。

アイシヤドー【図目に陰影をつけるためまぶたに塗る、青・緑・茶などの化粧品。▽英 eye shadow

あいーしゅう【哀愁】図もの悲しい気持ち。
あいーしゅう【愛執】図愛情がつよく、はなれられないこと。

あいーしよ【愛書】図①本をだいにすること。②愛読する本。

あいーしよ【相性・合い性】図①陰陽五行説から、生まれ年を木・火・土・金・水にわり当てて定めた、男女の性^{せい}のあうこと。結婚の適・不適をうらなうのに使う。②性質があうこと。「がいい」

あいーしよ【哀傷】図他サ人の死を悲しむこと。
あいーしよ【愛称】図正式の名まえとは別のししたみをこめた呼び名。

あいーしよ【愛唱・愛謡】図他サすきな詩歌やなどを声を出してよんだり、うたったりすること。一歌。図こんでうたう歌。

あいーじよう【愛情】図かわいがりたいせつにする心。

あいーじよう【愛嬢】図かわいがりたいせつにしているむすめ。まなむすめ。図他人のむすめについていう。

あいーじるし【合い印】図①組み合わせのつぎめにつけるしるし。②書類を照合した、しるしにおす印。③味方どうしできめたしるし。

あいーじん【愛人】図①愛している異性。こいびと。②「情婦・情夫」の遠まわしな表現。

アイス ①氷。②「アイスクリーム」の略。▽
英「イーキャンデー」名果汁などを棒状に凍

らせた氷菓子。△和製英語 ice candy ークリ
ーム 畜牛乳 砂糖 卵の黄味で作った氷菓子。

▽英 ice cream スケート 名氷の上をスケートですべるスポーツ。スケート。▽英 ice

skating から。ーホックス (氷上でひやす冷蔵庫)。△英 iceboxーホツケー (氷上でスケーティングをするホッケー)。△英 ice hockey

あいず【合図】名自サ 前もつてきめた方法で物事を知らせること。また、その方法。

あい・する【愛する】【他サ】①かわいがる。愛情をそそぐ。②すきこのむ。「詩を―」③だいじに

する。「一故郷」活用愛し・せ・さしするす
るすれしろ・せよ

あいせき【相席】名知らない人同士が同席すること。

あいせき【哀惜】名他サ人の死などを悲しみ
おしむこと。「一の念にたえない」

あいせき【愛惜】名他サ たいじにして かしむ
こと。「思い出の品を―する」

アイゼン 登山用具、
うす。「な物語」



[アイゼン]

あわれつぽくうったえること。

あいーそ【愛想】名①人あたりのよいこと。あい
そう。②もてなし。「おーなしですみません」

らうためにつくる笑い。――を**尽**かす いやになつて、見切りをつける。

あいぞう【愛憎】名愛することと、にくむこと
あいぞう【愛蔵】名他サたいせつにしまってお

あいそく【愛息】名かわいがっているむすこ。

アイソトープ(同位元素) 原子番号がひとしく、原子量のちがう元素。▽英 isotope

あいま。②ひとつづきの時間。「三日の―苦しんだ」③人間どうしの関係。「親子の―」④両

【名人と人との関係。「親しい」
【相対】①名 自サ 両方が向かいあうこ

と。●**名** 一対一で何かをすること。「一の取引
—**ずく** **名** 互いに承知したうえで物事を行うこ

と。相談すく。

あいたしゆぎ【愛他主義】名他人の利益・幸

己主義。 福を第一として行動する主義。 利他主義。 ↑利

あ、い、ち、や、く【愛着】（名）自分や強く心かひかれなれられないこと・気持ち。「―をもつ」

あいちようしゅうかん【愛鳥週間】省野鳥を愛する運動が行われる、毎年五月十日から

あいつ【彼奴】代「あのひとのぞんざいな言

い方。
あいつぐ【相次ぐ】自五 つぎつぎにつづく。

「勝利」
あいづち【相×槌】名①刀などをつくるとき、

方の人。②對抗して物ごとをする人。「一は強敵だ」一方^{かた} ①相手のほう。②法律で、

事件に係る他方の当事者。―取^とる（他方）
交渉や争いの相手とする。

アイディア②アイデア。③哲学で、理念
観念。イデー。②理想。③着想。思いつき。

△英 idea ーマン (新しい思いつきを次々と
ち出す人。 △英 idea man

あいとう【哀悼】〔名他〕人の死を悲しみなげく
る弟子。同門。

あいどく【愛読】名他サこのんで読むこと。

「書」
あいともなう【相伴う】自五①連れたつ。②

いっしょにあらわれる。「利害が」
アイドル ④ あこがれ・愛情の対象になるもの。

人気者。一かれは全校の「だ」▽英 idol
あい・なかば・する【相半ばする】【自サ】五分五

あいなめ （図） アイナメ科の魚。浅海の海藻の間
すすむ。本長約三〇センチ。食用。

あいにく【▲生憎】**副**形動 運が悪いようす。「一
だれもいない」「な天候」

アイヌ 図古くは、奥羽地方にも住んだ先住民族。いまは、北海道・サハリンなどに住む。

あいーのこ【合いの子・間の子】①雑種。混血児。②種類のちがう二つがあわさってでき

【あいの手・間の手】名①日本音

しよに乗ること。「オートバイの」

あいば【愛馬】図かわいがっている馬。

アイバンク 図死後、目の角膜を、目の不自由な人にゆずるためにあずける機関。目の銀行。

▽英 eye bank

あいびき【逢ひ引き】図図愛しあっている男女がそとあうこと。

あいぶ【愛撫】図図なでさすつて、また、なでさすように、かわいがること。

あいふく【合服・間服】図春と秋とに着る服合着。【夏と冬の間に着る服の意から】

あいふだ【合い札】図①品物をあずかった証拠としてわたす札。②わりふ。

あいべつ【哀別】図かなしいわかれ。

あいべつりく【愛別離苦】図愛する者と別れなければならない苦しみ。仏語で八苦の一つ。

あいべや【相部屋】図旅館などで、一つのへやに二人以上がいっしょにとまること。

あいば【愛慕】図図愛し、したること。

あいぼう【相棒】図いっしょに仕事をする相手。パートナー。「は、元氣かな」

アイポリー 図①ぞうげ。②うすい黄色。ぞうげ色。③ぞうげ色の厚い紙。▽英 ivory

あいまい【合間】図物事のとぎれた時間。ひま。

あいまい【曖昧】図動①あやふやなようす。②「な返事」②いかがわしいようす。「宿」

模糊 物事の意味・内容がはっきりせず、ぼんやりしているようす。

あいまたつて【たすけあつて。いっしょになつて。あいたがいが【相見互い】図たがいに同情したすけあうこと。【武士は】

あいちもち【相持ち】図①一つの物を、ふたりに共有すること。②費用などをわりかんにすること。③たがいに助けあうこと。

あいやど【相宿】図同じ宿屋にとまりあわせること。

あいよう【愛用】図図このんでつかうこと。

あいよく【愛欲】図①仏教で、欲望に心をうばわれること。②異性への肉体的な欲望。

あいらく【哀楽】図悲しみと楽しみ。喜怒哀

あいらし【愛らし】図かわいらしい。

あいろう【隘路】図①せまくてけわしい道。②物事を進める上の障害。難点。「を切り開く」

アイロニー 図①皮肉だ。あてこすり。②表面ではほめ、内に反対の意味をこめる言い方。反語。▽英 irony

アイロン 図①熱を加えて衣類のしわをのばし、形をととのえるのにつかう道具。②調髪用のこて。▽英 iron

あいわ【哀話】図あわれな話。

あう【合う】●国①二つ以上のものが一つになる。②調和する。「服に合ったネクタイ」③そろう。適合する。「計算が」「気が」「答えが」④経費に対して損をしないで、ひきあう。「あわない話だ」●関①動詞につき、五段活用動詞をつくるたがいに「する」「見せ」「許し」●関②合「わお」「う」「ええ」

あう【合う】●面①面会する。対面する。●遭①「遭う・逢う」出あう。「ひどいめに」

「は別れの始め会った人」といっつか必ず別れなければならない。無常のたとえ。

使い分け 「合う」「会う」「遭う」「遇う」「逢う」

「合う」は、計算が「目・好み」が、服が体に、合う」のように、物事が一致すること、あてはまること。「会う」は「客と会う」のよ

隘

（音アイ）
（訓せまい）

うに、人と人と顔をあわせること。「遭う」は「災難に遭う」のように、好ましくないことにであうこと。「遇う・逢う」は、「にわか雨に遇う・道で旧友に逢う」のように思いがけず出あうこと。

アウト 図①テニスやバレーなどで、球が規定の線外に出ること。②野球で、バッターやランナーとしての資格を失うこと。↓セーフ。▽

英 out サイダー 図①仲間以外の人。②常識的な社会のわくからはずれている人。③社会体制に対して批判的な人。▽英 outsider

ライン 図①ふちや、へりの線。②物事の主要。▽英 outline

ロー 図無法者。▽英 outlaw

阿吽^{あう}の呼吸^{あうのこそ} 共に物事を行おうとするとき互いに感じ合う両者の気持ち。また、それが一致すること。「うが合う」【阿吽】は、吐く息と吸う息。

あえぐ【喘ぐ】国①苦しうに息をきらす。「あえきながら登る」②苦しむ。「病苦に」

あえて【敢えて】国①すすんで。むりに。わざわざ。「反論する」②すこしも。別に。「悲しむには及ばない」

あえむ【敢え無い】図あつけない。「最期」

あえもの【和え物】図みそこま・すなどで野菜・魚・貝などをあえた料理。

あえる【和える】国①野菜・魚・貝などにみそこま・すなどをまぜあわせる。

あえん【亜鉛】図青白色でもろい金属の元素。元素記号 Zn 華 図白色の粉末で、顔料・医薬などに利用。酸化亜鉛。「軟膏」

あお【青】図①三原色の一つ。よく晴れた空のよ

あ【相棒】は、かご・もっこなどをかつぐ時に、同じ棒の前と後を二人でかつぐところから生まれた言葉。

うな色。②あい・水色・緑色などの総称。③黒いつやのある馬の毛なみ。また、その馬。④進めを示す交通信号。↑赤。↑は藍よりいでて藍より青とし「青色の染料は藍からとるが、その色は原料の藍よりも青いことから」弟子が、その恩師よりすぐれたものになるたとえ。出藍の誉れ。

あお・あお【青青】①顔面②いかにも青く見えるようす。一面に青いようす。「とした海原」あお・あらし【青嵐】①初夏、青葉のころに吹く風。

あおい【葵】アオイ科の植物の総称。たちあおい・ふゆあおいなど。

あおい【青い】①青色である。②【蒼い】血のけがなく、顔色がわるい。③未熟で、幼稚である。「考えに一所がある」④「青二」から「つ」い「い」けれ〇―鳥「メーテルリンクの戯曲『青い鳥の内容から』①身近にありながら気づかないでいる幸福。②幸福。

青息【吐息】いき 苦しいようす。困ったようす。「宿題が多くて」だ。

あおいまつり【葵祭】①京都の賀茂神社の祭り。五月十五日におこなわれる。京都の三大祭りの一つ。

あおうなばら【青海原】①青々とした広い海。あおうみがめ【青海亀】①ウミガメ科の一種。熱帯の海にすみ、体長約1メートル。正覚坊より。

あおいがい【青目】①らでんの材料にする青みをおびた真珠の貝。海岸の岩についている。科の、さらの形の貝。青目。②エキノカサガイ

あおいかび【青黴】①もちやパンなどにはえる、青みをおびたかび。ペニシリンをとる。

あおいぎり【青桐】アオギリ科の落葉高木。庭木や街路樹にする。

あ

あおぐ【仰ぐ】①顔を上に向ける。↑伏す。②顔③うやまう。「師と」④命令などをとめる。「さしずを」⑤上を向いて見る。「星を」

あおぐ【扇ぐ・煽ぐ】①うちわなどをうごかして風をさくす。

あおくさ【青草】①青々とした草。あおくさ【青臭い】①草の葉のようなおいがある。②幼稚である。「意見」

青【あおく】①青い色になる。②おそろしい物ことなどに出あつて顔色を失う。

あおざかな【青魚】①図かつお・さば・あじいわしなど。皮が青白いさかな。

あおざめる【青褪める】①興奮・おそれ、病氣などで顔色が青白くなる。

あおじやしん【青写真】①図面・書類などの複写に用いる一種の写真。②計画や設計。およその見通し。「都市計画の」

あおじろい【青白い】①青みがかった白い。②血のけがない。顔色がわるい。

あおすじ【青筋】①皮膚の表面にうき出て見える静脈。↑を立たる。おこつて、こめかみに静脈をうき出させる。

あおぞら【青空】①青く晴れた空。②屋根のない場所。「市場」

あおた【青田】①青々とした、まだ稲のみのっていない田。↑買。②米問屋などが、青田のうちに収穫を見こして米を買う約束をし、先に代金を払うとして採用する約束を早くからすること。青田刈。

あおだいしょう【青大将】①日本特産のへび。無毒。大きいのは二メートルになる。

あおだたみ【青量】①あたらしくて、青々とした量。

あおだち【青立ち】①天候不良などで稲などが、みのらないままでえていること。

あおてんじょう【青天井】①空を天井に見たてた語。青空。

青菜【あおな】①「青葉に塩をかける」といわれることから「元気がなくしおれているようす」成績が落ちて「だ」

あおにさい【青二才】①経験の浅い若い人をけいべつしている語。未熟な若者。

あおのけさま【仰け様】①からだを上に向ける状態。

あおのける【仰ける】①からだや顔をあおむけにする。あおむける。

あおのり【青海苔】①海岸の岩などにはえる緑藻類の細長い海藻。ほして食用にする。

あおば【青葉】①緑色の木の葉。②若葉。また、しげた若葉。新緑。「一の季節」

あおびょうたん【青瓢箪】①やせて顔色のわるい人をあざけていう語。

あおぶくれ【青膨れ】①顔色が青くて、むくんだようにふとっていること。

あおみ【青味】①青い色。青さの程度。②すいものさしみなどにそえる緑色の野菜。

あおみどり【青味泥】①水田・池・沼などにはえる緑色の糸のような水草。あおみどり。

あおむく【仰向く】①上を向く。あおのく。↑うつむく。

あおむけ【仰向け】①からだや顔を上へ向けること。上を向いたようす。あおのけ。

あおむける【仰向ける】①からだや顔を上へ向ける。あおむけにする。↑うつむける。

あおむし【青虫】①緑色の、ちゅうなどの幼虫。

あおももの【青物】①野菜類。「一屋」②いわ

あ

